

はじめに

モチベーション研究所の年次報告書『モチベーション研究』第12号をお届けいたします。本号は原著論文2本、研究所フォーラム抄録を1本掲載することができました。ご投稿いただいた皆様、ならびに第17回フォーラム「みんなで楽しく発達するパフォーマンス心理学入門」のご講演内容の掲載にご快諾いただきました茂呂雄二先生（東京成徳大学応用心理学部・心理学研究科教授）に、あらためて御礼申し上げます。

第18回フォーラムは、「もう一つのモチベーション論：失敗回避が求められる仕事でいきいきと働くために」と題しまして2022年2月23日（祝）に対面形式で池田浩先生（九州大学大学院・人間環境学研究院准教授）のご講演をいただきました。池田先生のご講演内容についても次号に掲載を予定しております。

暦は還る

2022年にはカタールでのサッカーワールドカップが開催され、惜しくもベスト8は逃しましたが日本チームの最終順位が9位とこれまでにない結果となり、日本中に勇気と感動を与えてくれました。特にドイツ、スペインという強豪国を相手に勝利を飾るなどあきらめずに挑戦することの大切さを伝えてくれたことの功績を称えずにはいられません。サッカーだけではなく、近年のスポーツにおける日本人の活躍は技術や体力の向上だけではなく、日本人のメンタリティの変化も大きく影響しているのかもしれない。

さて話は大きく変わりますが、日本では「還暦」、暦年齢で60歳（数え年で61歳）をひとつの区切りとして扱うことが多いようです。企業や組織では60歳定年を取り入れているところが多く、60歳以降を「第二の人生」として新たな事柄にチャレンジする人も最近では増えてきています。

そもそも「還暦」は十干十二支が一巡してもとの暦に還ることに由来しています。十二支は動物で示されなじみ深いものですが（もともとは木星の公転周期12年から天を12等分にしたもので、後から動物に置き換えられたとされています）、十干は「甲（こう）、乙（おつ）、丙（へい）、丁（てい）、戊（ぼ）、己（き）、庚（こう）、辛（しん）、壬（じん）、癸（き）」でもともとは中国で手の指の本数から数の数え方として始まったとされています。要するに12と10の最小公倍数である60が「還暦」となっています。

「還暦」は本来長寿を祝うもので、日本では出生時に戻ることから魔よけの意味も含めて赤い「ちゃん

ちゃんこ」や「頭巾」を身に着けることが風習として知られています。以前は生まれた子どもに赤い産着が使われていたのも魔よけの意味だと言われています（郷土玩具の会津地方の「赤べこ」や飛騨地方の「さるぼぼ」も魔よけや病気除けの意味があるようです）。その後古希（70歳）、喜寿（77歳）、傘寿（80歳）、米寿（88歳）、白寿（99歳）、百寿（100歳）と続き、二回目の還暦である大還暦（121歳）などが長寿を祝う節目となっています。ちなみに大還暦に関しては歴史上記録が残っているのは世界で1名だけで、フランスのジャンヌ＝ルイーズ・カルマン(1875-1997)が122歳と164日（当然、疑義が持たれています）生きたとされています。人間という生物の寿命が生物学の上限が120歳かもしれないと考え、「大還暦」という先人たちの智慧には本当に驚かされます。

その後をどう生きるか

現代では60歳はもちろん70歳でも多くの人たちは若々しく、以前のように長寿を祝うということも還暦や古希では少なくなってきました。日本人の平均寿命も2021年には男性81.47歳、女性87.57歳となり、日本は世界有数の長寿国となっています。1981年に1000人を超えた100歳以上の人口も2022年には9万526人（2022年9月1日現在）に増加しています。本当に人生100年の時代はそう遠くない未来に訪れ、私たちの生活スタイルを大きく変えることになるかもしれません。前述した「第二の人生」などと気楽な考えでは生活ができなくなり、後期高齢期になっても無理して働き続けなければならない未来が訪れるのではないかと危惧しています。

高齢者心理学を専門と考える私自身も暦年齢において残された時間を直視しなければならない発達段階が近づいています。スウェーデンの社会学者 Tornstamが提唱した「老年的超越」を参考にしつつ、さらに自分自身の生活に適合した「老年的超越」を考慮し「楽しく生きる」ことへの欲求を持ち続けたいと思います。しかし、これは今後の社会を考えるととても贅沢な「願い」なのかもしれません。

コロナ禍も3年目になると、「コロナ禍により思うようなモチベーション研究所の活動ができなかった」という言い訳も如何なものかと、率直に反省しなければならないと感じます。フォーラム等も対面での実施に戻しながら、さらに新たな活動方法を模索していきたいと考えています。今後とも皆さまのご理解とご支援を賜ることができましよう、よろしく願いいたします。